

下北森林管理署	
タイトル	低コスト作業システム現地検討会
実施年月日	平成24年10月11日(木)
実施場所	青森県むつ市田名部字田名部山第一国有林137い1林小班
参加者	局署：東北森林管理局、下北森林管理署 22名 外部：下北流域森林林業活性化センター(共催)、むつ市、 下北地方森林組合、東通村森林組合、署管内林業事業体等、 青森県森林整備事業(協)青年部会 20名 計 42名
<p>【取組の目的・概要】</p> <p>下北流域の事業体は、これまでも高性能林業機械の導入など効率化や低コスト化に努めてきているが、他流域に比べ木材の輸送コストが掛かり増しとなる不利な条件にあることから、更なる低コスト化を目指す必要がある。</p> <p>このため、これまで列状間伐と高性能林業機械との組合せによる効率的な間伐の作業仕組みについて、プロセッサ及びフォワーダによるデモンストレーションや意見交換を実施している。</p> <p>平成24年度においては、下北流域森林林業活性化センターとの共催により、森林作業道の作設方法及び列状間伐の伐採幅などについて、民有林関係者や林業事業体と現地検討を行うことにより、低コスト作業システムの推進を図る。</p>	
<p>【取組の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内各地の青森県森林整備事業(協)青年部会会員が取組や工夫について情報提供し、意見交換等を通じて、林業事業体等の知識・技術・意欲向上に資することができた。 ・ 列状間伐について、1伐2残、2伐4残の実例を現地で検証し、林況によって10m残の場合、残列が6列に及び、想定していた2伐4残の結果を得られないことを林業事業体が認識することができた。 ・ 現行の3m幅をベースとする森林作業道上での高性能林業機械の効率的活用にかかる現場作業員・オペレーターの疑問・課題について把握し、対応についての意見を交換することができた。 	
<p>【出された意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 森林作業道の幅が3mに制限され、作業道に附帯する作業スペースも設置できないため、重機の旋回が難しく、プロセッサで造材する場所もなく、せっかくの高性能林業機械をフルに生かせない。 ・ 1伐2残は、かかり木の発生が心配。 ・ 立木の列を伐採幅の目安にし、例えば1伐2残にした場合、上部の木が細い箇所では伐採幅が狭くなり、作業性や間伐効果に疑問が出てくるのではないか。 ・ 1伐2残、2伐4残で間伐する場合は、地形や林分に応じたマニュアルのような指示書を作成してほしい。 ・ 次回の検討会は国有林に多い急傾斜地で行い、様々な課題を検討すべき。 	
<p>【今後の課題】</p> <p>収穫調査の段階と連動した、間伐効果及び高性能林業機械の効率性向上のための林況に応じたマニュアル作成が必要と考えられる。</p>	



室内での情報交換



現地での説明



森林作業道の規格について意見交換



列状間伐の伐採幅別検証